

## スキンケアにおける因果の法則

皮膚は人体最大の臓器であり、外部環境と直接接するため、その健康状態は私たちの生活に大きな影響を与えます。乾燥、かゆみ、荒れ、シミ、しわ、ニキビなどの特定の皮膚症状は、スキンケアにおける因果の法則によって説明することができます。この因果の法則は普遍的であり、誰も抗うことはできません。

本研究では、スキンケアにおける因果の法則を明確にし、その結果をもとに効果的なスキンケア方法を提案 (WEB UP) します。これにより、皮膚の健康を維持し、トラブルを解消し、未然に防ぐことができます。

1. 特定の行為や環境:
  - ・気候、紫外線、汚染物質、合成界面活性剤配合の保湿化粧品や洗剤、空気乾燥、加齢などの環境要因が原因で、皮膚バリアの崩壊 (角質細胞間脂質のラメラ構造の脂質層の破壊) を引き起こす。
  - ・皮膚バリア崩壊に一番影響を与えるのは環境要因でその中で特に影響力があるのが合成界面活性剤配合の保湿化粧品や洗剤という点が重要です。
2. 皮膚バリアが崩壊すると:
  - ・バリア機能が喪失する
  - ・「皮膚を守るために外部からの有害物質の侵入や内部からの水分蒸散を防ぐ」バリア機能がなくなります。
3. バリア機能の喪失 (結果):
  - 角質水分保持力の低下を引き起こす。
4. 角質水分保持力が低下すると、結果として肌の乾燥を引き起こします。
  - ※バリア機能が損なわれると角質水分保持力の低下だけでなく、外部の有害物質や微生物が侵入しやすくなり、免疫システムが活性化されることが考えられます。これによって炎症やアレルギー反応が引き起こされますが、多くの文献や論文が『乾燥』に焦点を当てる理由の一つは、乾燥が非常に一般的であり、かつ治療可能な問題であるからです。また、乾燥が他の肌トラブルの引き金となることも多いので、初期段階での乾燥対策が重要とされています。
5. 肌が乾燥すると:
  - ターンオーバーが最終過程で滞り、古い角質が剥がれない。
6. 古い角質が剥がれないと:
  - 角質肥厚を引き起こします。
7. 角質肥厚が起きると:
  - ターンオーバーが乱れる。
8. ターンオーバーが乱れると:
  - バリア機能のある角質層が形成されない。
9. バリア機能が再生されないと:
  - 角質水分保持力が低下します。
10. 角質水分保持力が低下すると:
  - 再び肌が乾燥します。
11. 再び肌が乾燥すると:
  - 新たな出来事『特定の症状の発生』を引き起こす。乾燥、かゆみ、荒れ、シミ、しわ、ニキビなどの特定の症状が現れます。